

農商工連携で長命草を小豆島特産物に

■ 小豆島食材開発会議 ■

（小豆農業改良普及センター ○二宮浩、井口工、藤井寿江）

●対象の概要

小豆島食材開発会議は、小豆島らしい食材の開発により食品産業を活性化することを目的として、醤油醸造業、素麺やうどんなどの製麺業、菓子製造業など多様な事業者が参加するなど、食品企業16社と4団体で構成されており、農業者集団の「小豆島長命草の会（小豆島町室生地区の5戸の農家で組織）」も構成員となっている。

●課題を取り上げた理由

小豆島の主要な食品産業は醤油醸造業であるが、消費量は年々減少しており、新たな食材を利用した新食品を開発し活性化を図る必要性があった。

一方、小豆郡の農業は、経営耕地が50a未満の経営体が47%を占め、規模が零細で、高齢化率も39%に達しているため、地元企業に利用してもらえると同時に、軽量で高齢者が小面積で取り組める地域特産物の開発が急務であった。

●普及活動の経過

小豆島食事開発会議が平成25年から5種類の植物の試験栽培に取り組んだ結果、「長命草」が選定された。

長命草（ボタンボウフウ）はセリ科の多年草で、沖縄地方では海岸部に自生し、ビタミンや食物繊維、カルシウム、ポリフェノールなどを豊富に含み、古くから食用にされている。また、日射、強風などにも強いことから、島しょ部での栽培に適合すると考えられた。

1 試験栽培への支援

小豆島は醤油醸造業者が21社あり、香川県産醤油の70%を製造するなど主要産業となっているが、その副産物の醤油粕6千トンの処理が課題となっている。こうした中、長命草は塩分に強く、醤油粕（塩分13%）を肥料として利用できると考えられたので、その試験栽培の支援を求められ、試作を支援し成功に導いた。

2 「小豆島長命草プロジェクト」の策定

栽培に目途がつき、長命草を活用した商品の開

発が必要となるとともに、商品開発には資金とアイデアが必要であるので、『「香川らしい」成長産業化ビジネスプラン提案事業』への応募を提案した。応募者は、長命草の試験栽培に取り組み、長命草を買い取り、粉末加工して企業に提供している「(株)ムトスの森」として、長命草を活用した取組みにより、小豆地域を活性化する「小豆島長命草プロジェクト」の策定を関係機関とともに支援し、平成28年9月に応募した。同プランは、長命草栽培グループである「小豆島長命草の会」、食品製造業者の連携調整組織である「小豆島食材開発会議」、「(株)ムトスの森」が連携し、機能性の確認と新商品開発を行う計画とした。

3 新商品の開発支援

6次産業化プランナーやかがわ産業支援財団等と連携し、魅力ある商品が開発できるよう支援を行った。具体的には、研修会や相談会へ参加を促すと同時に、開発する新商品が、魅力あるものとなるよう企画・立案を支援した。

4 栽培者自らの商品化への支援

農業者集団である「長命草の会」が取り組む「長命草饅頭」の試作について、レシピ作成から食品営業許可まで一貫的に支援し、地産地消に結び付けた。

●普及活動の成果

1 ビジネスプラン認定で5商品を開発



小豆島長命草の会のメンバー

「小豆島長命草プロジェクト」は、28年10月に『「香川らしい」成長産業化ビジネスプラン提案事業』の助成対象として認定され、小豆島食材開発会議加入の食品業者は長命草を活用した商品開発を開始した。平成28年度は、長命草を使った、ドレッシング、青汁、素麺、佃煮、うどんの5商品が開発され、島内の3つの売店やホームページでの販売が始まった。



地元で販売の始まった長命草利用の新商品

2 農業者の安定収入を確保

小豆島長命草の会の5戸が計25aで栽培し、地元企業が確実に購入するため、栽培農家は安定した収入を確保できた。

3 未利用資源の有効活用

醬油粕が肥料として活用できたことで、企業は製造副産物の活用による新商品開発ができ、農業者は肥料費の低減を図ることができた。

4 長命草饅頭は地元で高評価を獲得

地元農家の女性が主体となって「長命草饅頭」を500個製造し、平成28年10月に開催された「小豆島町ふるさと商工まつり」で販売したところ、購入者からも好評で、今後のイベント等での販売も期待されている。

●今後の普及活動の課題

1 機能性の調査の支援

健康に貢献する機能性を明らかにすることにより、商品価値をさらに高くすることが可能であることから、香川大学等との連携により、機能性調査を継続しており、引き続き支援が必要である。

2 長命草の安定生産

栽培面積の少ないマイナー作物の上、農薬不使用をセールスポイントにしており、有機JAS制度で認められている農薬をも使用しないことから、病害虫への対応に苦慮している。

3 継続的な地元食品産業との連携

今後も、高齢者が小規模でも取り組めるソラマメ、香川本鷹、ゴマなどを栽培し、地元食品産業との連携のもと、特徴ある農産物を掘り起こす必要がある。



地元女性が開発した長命草饅頭